

平成14年度事業報告書

社団法人瀬戸内海環境保全協会

I 一般事項

1. 会議等の開催

(1)平成14年度通常総会（平成14年5月27日 ラッセホール）

- ・平成13年度事業報告及び収支決算
- ・平成14年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する要望
- ・役員への補欠選任

(2)理事会

①第70回理事会（平成14年5月15日 ラッセホール）

- ・会員の入会承認
- ・専門委員会委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

②第71回理事会（平成14年8月27日 書面表決）

- ・専門委員会委員の委嘱

③第72回理事会（平成15年3月26日 ラッセホール）

- ・職員給与規則等の一部改正
- ・平成14年度収支予算の補正
- ・平成14年度事業実施状況
- ・平成15年度事業計画案及び収支予算案

(3)専門委員会等

①企画委員会

ア 第67回企画委員会（平成14年6月24日 国際健康開発センター）

- ・平成14年度事業の進め方について

イ 第68回企画委員会（平成15年3月5日 国際健康開発センター）

- ・平成14年度事業実施状況について
- ・平成15年度事業計画（案）について

②調査委員会（平成15年1月31日 博多サンヒルズホテル）

- ・平成14年度瀬戸内海環境情報基本調査経過説明
- ・平成15年度瀬戸内海環境情報基本調査計画（案）について

③編集委員会

ア 第1回編集委員会（平成14年7月8日 兵庫県民会館）

- ・協会総合誌「瀬戸内海」第31号及び第32号の編集について

イ 第2回編集委員会（平成15年1月20日 兵庫県民会館）

- ・協会総合誌「瀬戸内海」第33号及び第34号の編集について

④賛助会員事業部会

ア 第1回賛助会員事業部会（平成14年6月27日 兵庫県民会館）

- ・平成14年度事業計画の検討

イ 第2回賛助会員事業部会（平成14年11月22日 兵庫県民会館）

- ・第2回賛助会員研修会の企画検討について
- ・今後の研修会のあり方について

(4) 参事・事務局長並びに担当課長会議（平成15年3月18日 国際健康開発センター）

- ・平成14年度事業実施状況について
- ・平成15年度事業計画（案）について
- ・会員からの情報提供

2. 専門委員の委嘱

企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

(1) 企画委員

北田 博昭	大阪府環境農林水産部循環型社会推進室環境管理課長
嵐 一夫	兵庫県県民生活部環境局水質課長
大坂 桂介	広島県環境生活部環境創造総室環境調整室長
大森 利春	香川県環境部次長兼環境管理課長
上野 正利	大分県生活環境部環境管理課長
児島 猛	神戸市環境局参事（環境保全指導課長事務取扱）
田崎 浩次	大分市環境部環境対策課長
後藤 浩	山口県漁業協同組合連合会専務理事（平成14年10月10日～）
宮本 寿	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
岡崎 進	（社）大阪エィボランタリーネットワーク事務局長
木原 敏博	（財）広島県環境保健協会常務理事

(2) 調査委員

小野沢征輝	大阪府環境情報センター所長
川村 隆	兵庫県立健康環境科学研究センター所長
大畑 雅洋	和歌山県衛生公害研究センター所長
辻 力	〃 (平成14年12月5日～)
小倉 肇	岡山県環境保健センター所長
岡佐古義高	広島県保健環境センター所長
宮村 恵宣	山口県環境保健研究センター所長
武田喜美男	徳島県保健環境センター所長
横井 聡	香川県環境保健研究センター所長
井上 博雄	愛媛県立衛生環境研究所長
加藤 元博	福岡県保健環境研究所長
甲斐 崇明	大分県衛生環境研究センター所長

(3) 編集委員

井上 祐一	関西電力株式会社環境室環境技術グループマネジャー
岡本 亮	（財）広島県環境保健協会環境科学センター環境企画部長
勝野聡一郎	環境省環境管理局水環境部閉鎖性海域対策室室長補佐
北村 弘行	元（社）瀬戸内海環境保全協会参与
谷本 高敏	兵庫県立健康環境科学研究センター水質環境部長
西田 正憲	奈良県立大学地域創造学部教授
野田 清敏	北九州市環境局環境保全部環境管理課長

久野 武	関西学院大学総合政策学部教授
藤井 正美	(財)三栄源食品化学研究振興財団理事
松村 真作	岡山県水産試験場長
真鍋 武彦	兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター所長
谷津龍太郎	(社)国際環境研究協会APNセンター長
山村 尊房	〃 (平成14年9月2日～)
山田 勝一	株式会社クボタ環境安全部部長待遇
鷺尾 圭司	京都精華大学人文学部教授

3. 事務局職員 (15.3.31 現在)

常務理事	中嶋 邦弘 (兵庫県からの出向)
顧問	櫻井 正昭 ((財)自然公園財団専務理事)
事務局長兼業務課長	山崎 卓三 (兵庫県からの出向)
参事兼総務課長	大川秀二郎
主査	杜 勝久 ((株)総合科学からの出向 平成14年6月1日～)
主任	中井 純子
主任	濱 和宏 ((株)総合科学からの出向 ～平成14年5月31日)
主任	守安 雅代

II 事業

1. 普及活動及び活動支援事業

(1) 平成14年度(第30回)瀬戸内海環境保全月間事業の展開(14.6.1～6.30)

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対して、広域的な瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、広く公募した作品によりポスターを作成し、これを掲示するとともに、パンフレットの配布などを行った。

- ・平成14年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの一般公募最優秀作品
香川県立高松工芸高等学校デザイン科3年 森川彩香さんの作品

(2) 平成15年度(第31回)瀬戸内海環境保全月間ポスターの一般公募(14.7.15～11.30)

ポスター選定委員会の開催(平成15年3月7日)

応募数 子供部門： 92
一般部門： 275 総数： 367

(3) 瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の実施

①人材育成事業の実施

瀬戸内海環境保全指導者育成セミナーの実施

- ・四国ブロック(平成14年11月10日 松山市コムズ)

テーマ：森林と海

基調講演：森林と海はどのように関わり合うことができるか？

ー循環型社会における陸域と海域の包括的環境管理に向けてー

広島大学大学院生物圏科学研究科教授 松田 治

事例発表・パネルディスカッション：

コーディネーター 愛媛県環境創造センター所長 立川 涼

パネリスト エコトークプランニング代表 斉藤 智子

松山淡水ベントス研究所主宰 桑田 一男
特定非営利活動法人黒潮実感センター長 神田 優

参加人数：約80名

- ・中国ブロック（平成15年3月14日 山口県総合保健会館）

テーマ：水が結ぶ森・川・海－流域の交流－

基調講演：森・川・海をめぐる「つながり」の復権

－循環型社会における包括的環境管理に向けて－

広島大学大学院生物圏科学研究科教授 松田 治

事例発表・パネリストディスカッション：

コーディネーター 広島大学大学院生物圏科学研究科教授 松田 治

パネリスト もりメイト倶楽部 Hiroshima 事務局長 山本 恵由美

太田川たんけん協会代表 藤野 完二

前山口県漁業協同組合連合会専務理事 金子 信義

参加人数：約280名

（ふるさとの川セミナー（山口県主催）と合同開催）

- ②瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

新たに瀬戸内海の環境保全のための業務に従事することとなった会員団体職員を対象に研修会を開催した。

日時：平成14年9月4日～6日

場所：グリーンピア安浦（広島県）

講師：香川大学名誉教授 岡市 友利

九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

広島大学大学院工学研究科教授 岡田 光正

奈良県立大学教授 西田 正憲

広島県広島地域保健所主任専門員 今村賢太郎

環境省閉鎖性海域対策室審査係長 柗 寿珠

参加人数：19名

- (4)瀬戸内海環境保全市民講座

中核市の市民を対象に、瀬戸内海の環境保全に係る意識啓発を行うために開催した。

- ①倉敷市（平成15年2月5日 くらしき健康福祉プラザ）

テーマ：循環型社会に向けての課題－エコタウン事業を中心として－

講師：岡山商科大学商学部教授 岡本 輝代志

参加人数：約50名

- ②奈良市（平成15年2月26日 奈良市西部会館市民ホール）

テーマ：生活排水の河川汚濁と閉鎖性水域（瀬戸内海）への影響

講師：摂南大学工学部都市環境システム学科教授 海老瀬 潜一

参加人数：約80名

- (5)平成14年度瀬戸内海漁場環境保全に関する漁業団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海漁場環境保全対策連絡会／大阪府漁業協同組合連合会／（社）瀬戸内海環境保全協会

日時：平成14年10月24日

場所：ホテル日航関西国際空港

講演：内湾での環境改善ーりんくう公園内海の事例も交えてー
大阪府立大学大学院工学研究科助教授 大塚 耕司
参加人数：約50名

(6)平成14年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議／（財）広島県環境保健協会／（社）瀬戸内海環境保全協会

日時：平成14年10月28日～29日

場所：グリーンピア安浦（広島県）

基調講演：ファインダーからみた瀬戸内海
写真家 脇山 功

事例研究：海や河川の環境保全活動に取り組んでいる活動の紹介と情報交流

参加人数：約140名

(7)瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業の展開

沿岸域住民の瀬戸内海に対する理解や関心を深め、自主的な取り組みを推進するための契機となるよう平成11年度から実施しているスナメリ発見情報プロジェクト（環境事業団地球環境基金助成事業：平成11～13年度）を引き続き展開した。

(8)瀬戸内海の沿岸域における浜辺の観察教室（実践環境教育事業・日本財団助成事業）

瀬戸内海における代表的な湾・灘において、子どもたちが浜辺に出かけ、直接様々な生き物に触れ、どのような環境にどのような生き物が生息しているのかを考える機会を作り、瀬戸内海における環境保全の大切さを学ぶ実践的な環境学習（環境教育）の場を提供した。また、せとうちネットを活用し、環境教育の大切さを広くPRする。

①宮島（対象：プランクトン、干潟）

・第1回：平成14年7月31日 参加人数：31名

・第2回：平成14年9月7日～8日 参加人数：83名

・第3回：平成15年3月2日 参加人数：89名

②白浜（対象：水生生物、山の植物）

平成14年12月1日 参加人数：94名

(9)環境保全活動テキストの発行

沿岸域の環境保全活動に資するため、瀬戸内海研究会が環境事業団地球環境基金の助成を受けて編集・作成した環境保全活動テキスト「瀬戸内海とわたしたちー森～川～海からひと・くらし・いきものを考えよう」を協会で印刷、発行した。

(10) 瀬戸内海環境保全パネルの貸し出し

瀬戸内海の環境保全の普及・広報活動に資するため「瀬戸内海の環境保全パネル」を会員が実施するイベント等に展示・活用する目的で貸し出しを行った。

(11) 環境イベントへの参加

環境保全の普及・広報活動の一環として他団体が主催する環境イベントに参加し、パネル展示、資料配付などを実施した。

・ふれあいの祭典「さわやか環境まつり」（ひょうごエコフェスティバル2002 14.10.12～13）

主催：ふれあいの祭典実行委員会他 西宮スタジアム周辺（西宮市）

(12) 特別講演会の開催

通常総会の開催に合わせ、特別講演会を開催した。

日時：平成14年5月27日

場所：ラッセホール

講演：海を見よう 遠くを見よう

講師：山陽新聞社 論説委員会 副主幹 藤原 知明

(13) 賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

①平成14年度瀬戸内海環境保全月間行事（平成14年6月1日～30日）への積極的参加

- ・ポスター一般公募への協力、参加
- ・月間ポスター等への提出による普及啓発活動の実施
- ・月間中の行事実施状況の取りまとめ

②総合誌「瀬戸内海」の配布と投稿

③平成14年度賛助会員研修会の開催

ア 第1回 豊島・直島（香川県）の現地研修会

テーマ：豊島産業廃棄物等対策事業の現況

日時：平成14年10月23日

場所：豊島産業廃棄物等中間処理施設建設現場（直島）、廃棄物投棄現場（豊島）

参加人数：約50名

イ 第2回 P R T R制度とリスクコミュニケーションに関するセミナー

主催：(社) 瀬戸内海環境保全協会／兵庫県環境保全管理者協会

日時：平成15年2月5日

場所：神戸市産業振興センター

講師：兵庫県環境局環境情報センター室長 菊井 順一

大阪大学大学院工学研究科教授 盛岡 通

(社) 環境情報科学センター特別研究員 大歳 幸男

参加人数：約210名

④平成15年度瀬戸内海環境保全月間ポスター一般公募実施要領の配布

(14) 瀬戸内海環境保全対策研修会の実施

環境省・学識者・各関係機関の協力を得て瀬戸内海における新たな環境保全に資するため、瀬戸内海地域における各分野に係る環境保全対策の今日的话题の理解をより一層深めることを目的に開催した。

	テーマ	開催日 開催場所	講 師	参加者
第1回	閉鎖性 海域対 策	H14. 7. 24 大阪市	坂川 勉 環境省閉鎖性海域対策室長 須藤隆一 東北工業大学客員教授 北田博昭 大阪府環境管理課長	80名
第2回	化学物 質対策	H14. 9. 13 広島市	進藤慶英 環境省閉鎖性海域対策室主査 岡田光正 広島大学大学院工学研究科教授 手塚和彦 イ・アントイ・ソリューションズ(株)環境管理計画室長	76名
第3回	循環型 社会対 策	H14. 11. 18 北九州市	染野憲治 環境省循環型社会推進室室長補佐 花嶋正孝 福岡県リサイクル総合センター長 垣迫裕俊 北九州市環境産業政策室長	40名

第4回	土壌環境保全対策	H15. 1. 17 高松市	由田秀人 村岡浩爾 西原義一 浦満彦	環境省土壌環境課長 大阪産業大学人間環境学部教授 香川県廃棄物対策課長 鹿島建設(株)環境本部次長	92名
第5回	地球温暖化対策	H15. 3. 4 神戸市	内藤克彦 松下和夫 小林悦夫	環境省地球温暖化対策課調整官 京都大学大学院地球環境学堂教授 (財)ひょうご環境創造協会副理事長	61名

(15) 各種環境保全事業への協力

大阪湾クリーン作戦へ協力した。

(16) 環境NGO/NPOとの連携・支援

瀬戸内海における自然環境等の保全に努める環境NGO/NPOとの連携・支援を行った。

2. 指導・助成

各種環境保全活動事業に対する助成

中核市、漁業団体、衛生団体が実施する各種環境保全活動事業に対しその活動費用の一部を助成した。

3. 情報収集・発信事業

(1) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワークシステム（「せとうちネット」）の管理、運営

瀬戸内海に関する水質等環境情報や社会経済、文化・歴史等情報、各種調査研究成果等多様な情報の提供を目的として平成10年度に構築した「せとうちネット」の的確な管理・運営に努めるとともに、環境省の委託等により情報、データの追加・更新を行った。

14年度の追加項目

- ・瀬戸内海広域総合水質調査結果
- ・書籍情報
- ・動植物等の情報

①せとうちネット管理運営委員会（委員長：柳 哲雄九州大学応用力学研究所教授）

開催日：第1回 平成14年7月25日

第2回 平成15年3月20日

(2) 総合誌「瀬戸内海」の発行及び配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を次のとおり発刊した。

- ・平成14年6月 第30号
- ・平成14年9月 第31号
- ・平成14年12月 第32号
- ・平成15年3月 第33号

(3) 資料集「瀬戸内海の環境保全—平成14年度版—」の発行及び配布

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、収録した資料集「瀬戸内海の環境保全—平成14年度版—」を発行配布した。

(4) 新・瀬戸内海文化シリーズの頒布終了

「瀬戸内海の自然と環境」（平成10年3月発行）、「瀬戸内海の文化と環境」（平成11年3月

発行)については、瀬戸内海に関係する一般の方に広く活用してもらうことがより一層有益であるため、公的な施設(大学及び公立図書館等)に残部を寄贈し、14年度限りで書籍出版特別会計を閉じた。

(5) 協会ホームページの全面更新

当協会の活動紹介及び環境情報等の発信の充実を図るため、ホームページを全面更新するとともに英語ページも開設した。

4. 調査・研究事業

(1) 瀬戸内海環境情報基本調査(継)(環境省より受託 平成13年度～)

瀬戸内海の環境の状態を継続的に把握し、環境保全に係る諸施策の効果を検証することにより今後一層実効的な施策の検討、推進に資するため、これまで概ね10年を周期として実施してきた基本調査(底質、底生生物等調査)を実施するとともに、関係水域(播磨灘・燧灘・別府湾)に関する文献調査を実施した。

検討会: 瀬戸内海環境情報基本調査検討委員会(委員長: 塩沢孝之広島県産業科学技術研究所副所長)

開催日: 第1回 平成14年7月11日

第2回 平成15年2月4日

調査項目: 底質・底生生物等(紀伊水道・備讃瀬戸・備後灘・豊後水道)
解析調査(播磨灘・燧灘・別府湾)

(2) 瀬戸内海水域の地域特性を踏まえた有機汚濁機構の解明に関する研究(新)(環境省より受託 平成14年度～)

外洋から瀬戸内海へ流入する全りん・全窒素の影響を評価し、有機汚濁機構を解明するため、瀬戸内海における全りん・全窒素の既存データを取りまとめるとともに、現地観測を実施した。

今後、これらの結果等を用いて、地域特性を踏まえた瀬戸内海の水質改善方策を検討する予定である。

検討会: 調査検討委員会(委員長: 柳 哲雄九州大学応用力学研究所教授)

開催日: 第1回 平成14年10月20日

第2回 平成15年2月16日

(3) 累積埋立て環境影響対応方策検討調査(新)(環境省より受託 平成14年度～)

瀬戸内海地域においては、瀬戸内海環境保全特別措置法の規定により、埋立てを厳に抑制する環境保全上の配慮がなされてきたところであるが、特に大阪湾では公共公益性からやむを得ず認められた埋立等により海岸線の人工化が進み、水質浄化に重要な役割を果たす浅海域は大幅に減少している。

このことに鑑み、大阪湾に係る累積する埋立ての影響について、水質等への影響を把握し、これらの事業の複合的な影響について調査分析する。

検討会: 対応方策検討委員会(委員長: 渡辺正孝国立環境研究所領域長)

開催日: 第1回 平成14年12月18日

第2回 平成15年3月18日

5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進を支援し、協力

した。

(1) 瀬戸内海研究会議事務局

円滑な事務運営に務めるとともに、事業を適切、効率的に遂行した。

(2) 「瀬戸内海研究フォーラム in わかやま」及びワークショップの開催に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議が開催する「瀬戸内海研究フォーラム in わかやま」の開催に対し、支援・協力した。

瀬戸内海研究フォーラム in わかやま：平成14年8月29日～30日

アバローム紀の国（和歌山市内）

瀬戸内海研究会議ワークショップ：平成14年11月19日

国際健康開発センター（神戸市内）

6. 国際的な活動への参加と協力

(財) 国際エメックスセンターが行う国際的な活動に対し、積極的に参加、協力した。

7. その他関連事業

(1) 国に対する要望

協会が実施する事業及び調査研究の拡充強化並びに本協会の運営への配慮について国に要望した。

(2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との協調

瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連絡を密にし、協調して事業実施に当たった。

(3) 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進に努めた。